

SEKISUIKASEI

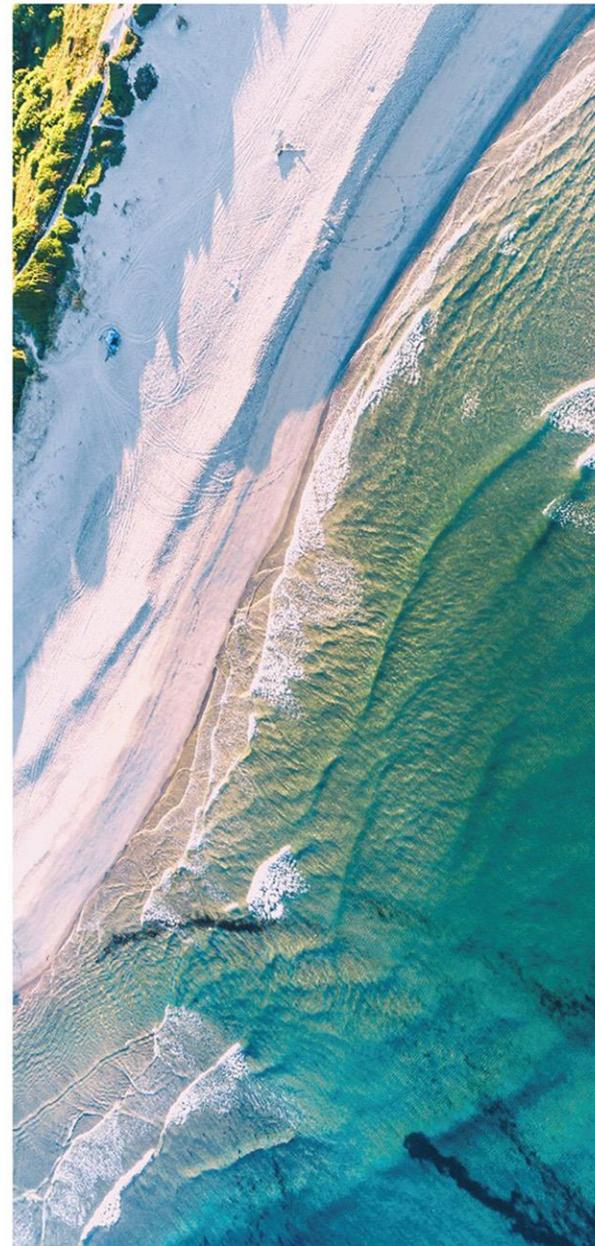
2025年3月期
第2四半期 決算説明資料

Spiral-up 2024

積水化成品工業株式会社

(プライム市場 証券コード：4228)

2024年11月7日



目次

- 1 2024年度上期 決算概要
- 2 2024年度通期 業績見通し
- 3 2024年度上期 トピックス

目次

1

2024年度上期 決算概要

2

2024年度通期 業績見通し

3

2024年度上期 トピックス

2024年度上期 決算概要

(単位：億円)	2023年度 上期	2024年度 上期		前年比		計画比	
	実績 (A)	期初計画 (B)	実績 (D)	(D)-(A)	増減率	(D)-(B)	増減率
売上高	650	660.0	690.6	+40.6	106%	+30.6	105%
営業利益 <営業利益率>	3.4 <0.5%>	8.0 <1.2%>	0.8 <0.1%>	△2.6	23%	△7.2	10%
経常利益	11.7	7.0	△ 3.8	△15.5	—	△10.8	—
親会社株主に 帰属する純利益	4.6	2.0	△ 3.7	△8.3	—	△5.7	—

● **売上高** 価格改定などにより、前年比・計画比ともに「増収」

● **営業利益** 下記要因により、前年比・計画比ともに「減益」

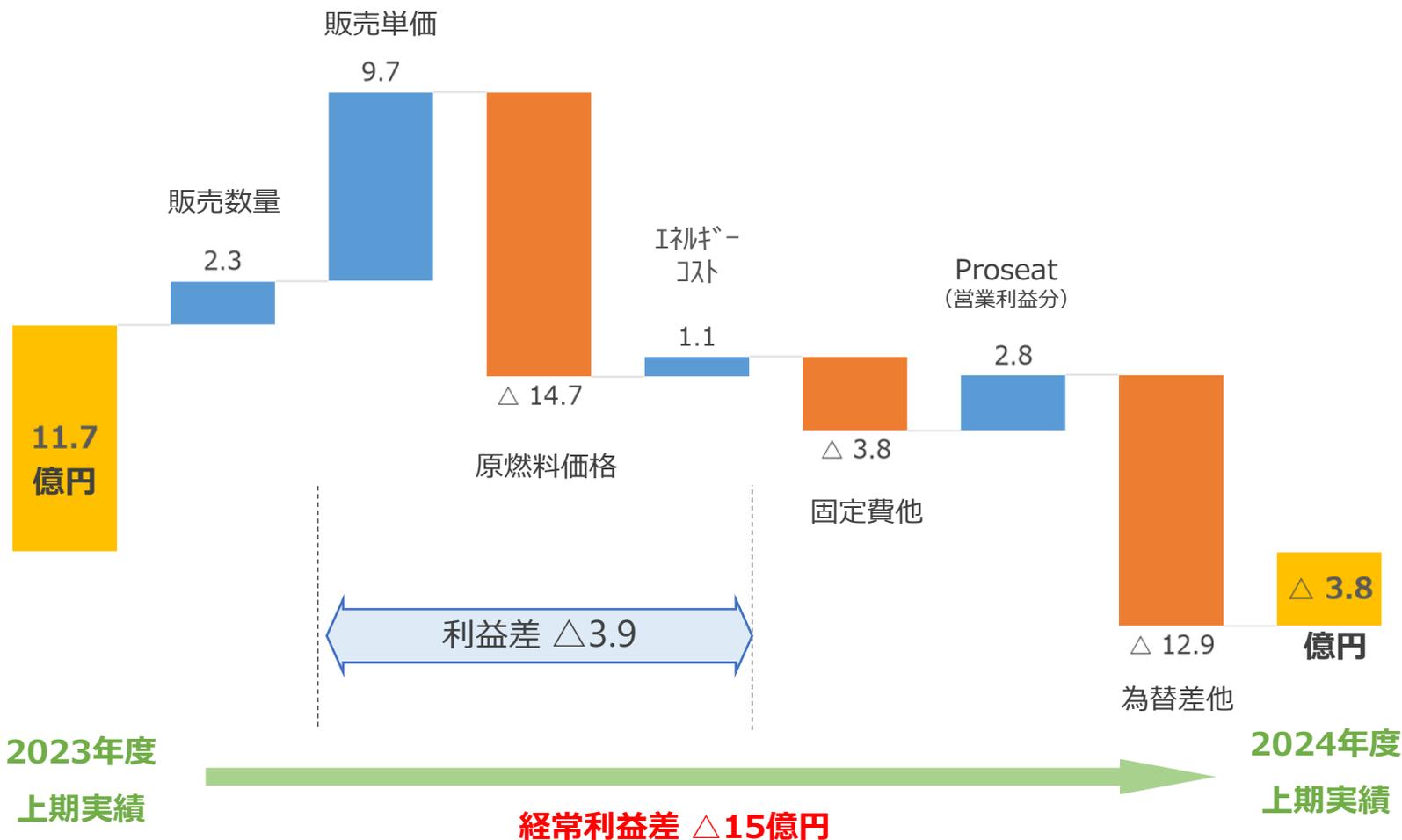
<計画対比の状況>

- ヒューマンライフ分野の需要低調と原料価格転嫁遅れ (約△3億円)
- インダストリー分野（モビリティ領域）の労務費高騰影響 (約△1億円)
- Proseat事業の欧州自動車需要低迷と労務費高騰など (約△3億円)

● **経常利益** 為替差損などにより、前年比・計画比ともに「大幅減益」

FY2024上期 經常利益増減（前年比）

■ 増加 ■ 減少



FY2024上期 インダストリー分野

(単位：億円)	2023年度 上期	2024年度 上期		前年比		計画比	
	実績 (A)	期初計画 (B)	実績 (D)	(D)-(A)	増減率	(D)-(B)	増減率
売上高	404.6	408.0	432.3	+27.7	107%	+24.3	106%
営業利益	6.4	12.0	8.2	+1.8	128%	△3.8	69%
<営業利益率>	<1.6%>	<2.9%>	<1.9%>				

● 売上高：前年比・計画比ともに「増収」

- ・モビリティ：Proseat事業の価格転嫁と対EUR為替影響などにより、前年比「増収」
- ・エレクトロニクス：アジアでのピオセラン需要の増加や、テクポリマーの拡販などにより、前年比「増収」
- ・医療・健康：エラストイルのシューズ部材用途のスポット販売増などにより、前年比「増収」

● 営業利益：前年比「増益」も、計画比では「減益」

- ・前年比：ピオセラン需要増加、テクポリマー拡販、Proseat事業の販売価格改定などにより、前年比「増益」
- ・計画比：欧州の自動車需要低迷影響および欧米の労務費高騰により、計画比「減益」

FY2024上期 ヒューマンライフ分野

(単位：億円)	2023年度 上期	2024年度 上期		前年比		計画比	
	実績 (A)	期初計画 (B)	実績 (D)	(D)-(A)	増減率	(D)-(B)	増減率
売上高	245.4	252.0	258.4	+13.0	105%	+6.4	103%
営業利益	9.4	9.0	6.5	△2.9	69%	△2.5	73%
<営業利益率>	<3.8%>	<3.6%>	<2.5%>				

● 売上高：前年比・計画比ともに「増収」

- ・食領域（シート）：食品トレー向け需要伸長と価格転嫁効果で、前年比「増収」
（ビーズ）：ビーズ全体の需要量が期初想定を大きく下回ったことにより、前年比「減収」
- ・住環境・エネルギー：工事物件の進捗遅れにより、前年比「減収」

● 営業利益：価格転嫁の時期ズレおよび、ビーズ需要低迷で、前年比・計画比とも「減益」

FY2024上期 財政状況

(単位：億円)	2023年度末	2024年度上期末	前期対比
総資産	1,465	1,450	△ 15
純資産	568	562	△ 6
自己資本比率	38.3%	38.3%	0.0%
1株あたり純資産	1,235円52銭	1,219円84銭	△15円69銭
(参考) 自己資本	561	555	△ 6
現金及び預金	109	88	△ 21
短期借入金	145	156	+ 11
長期借入金	164	150	△ 14
社債	70	70	+ 0
有利子負債	379	376	△ 2
D/Eレシオ (倍)	0.68	0.68	+ 0.00

※注) 上記の有利子負債は、借入金と社債の合算値です。

● 財政状況の大きな変動はない

目次

- 1 FY2024 上期決算概要
- 2 FY2024 通期業績見通し
- 3 FY2024 上期トピックス

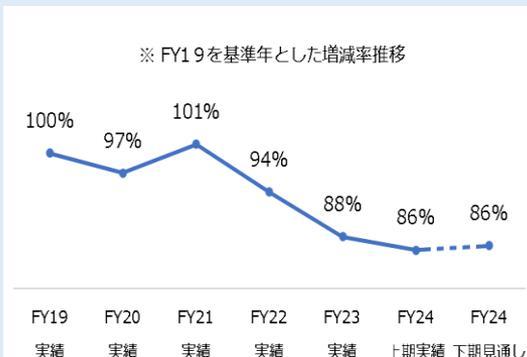
市況推移と見通し

国産ナフサ価格 (期中平均値)



依然として高値圏で推移する見通し

E P S ビーズ (業界全体数量)



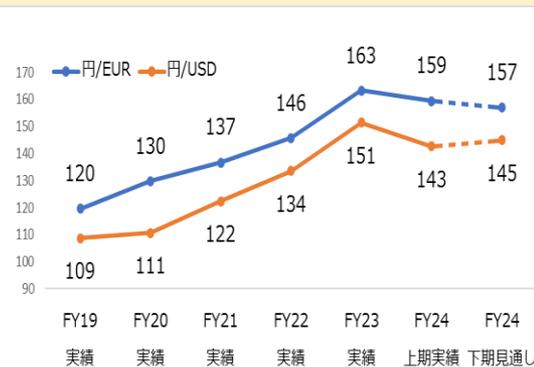
業界見通しは「前年比減」

液晶ディスプレイ (面積ベース)



モニター向けが好調に推移

為替レート



先行き不透明であり、下期は期初想定ベース

P S P シート (業界全体数量)



業界見通しは「前年をやや上回る」

自動車世界生産 (台数)



世界全体の見通しは「前年をやや上回る」

2024年度 通期業績見通し

(単位：億円)	2023年度	2024年度			前年比	
	通期実績 (A)	上期実績 (B)	下期見通し (C)	通期見通し (D)	増減 (D)-(A)	増減率
売上高	1,302.7	690.6	649.4	1,340.0	+37.3	103%
営業利益 <営業利益率>	12.6 <1.0%>	0.8 <0.1%>	9.2 <1.4%>	10.0 <0.7%>	△ 2.6	79%
経常利益	27.3	△ 3.8	10.8	7.0	△ 20.3	26%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10.8	△ 3.7	7.7	4.0	△ 6.8	37%

● 前年比「増収・減益」

● 通期業績見通し（営業利益・経常利益）を「下方修正」 ※2024年10月29日公表

営業利益（25億円→10億円 △15億円）、経常利益（22億円→7億円 △15億円）

- ヒューマンライフ分野の上期減益影響分 (計画比約△ 3 億円)
- モビリティ領域の労務費高騰と南東アジア地域の需要低調および、
エレクトロニクス領域の堺ディスプレイプロダクト社生産停止影響など (計画比約△ 4 億円)
- 欧州自動車需要の更なる減退とそれに対応する追加リストラなど (計画比約△ 8 億円)

2024年度 通期業績見通し

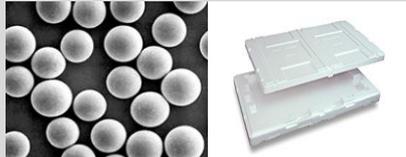
(単位：億円)	2023年度			2024年度			前年対比	
	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 実績	下期 (見通し)	通期 (見通し)	通期 増減額	通期 増減率
売上高	650	653	1,303	691	649	1,340	+37	103%
インダストリー	405	407	812	432	388	820	+8	101%
ヒューマンライフ	245	246	491	258	262	520	+29	106%
営業利益	3	9	13	1	9	10	△3	79%
(営業利益率)	0.5%	1.4%	1.0%	0.1%	1.4%	0.7%		
インダストリー	6	13	19	8	9	17	△2	88%
ヒューマンライフ	9	8	18	7	13	19	+2	110%
本社コスト	△ 12	△ 12	△ 24	△ 14	△ 12	△ 26	△2	—

※ 本社コストにはDXシステム費用などを含む

2024年度 インダストリー分野 通期見通し

(単位：億円)	2023年度 実績 (A)	2024年度 見通し			前年比	
		上期 実績	下期 見通し	(B)	(B) - (A)	
売上高	812	432	388	820	+8	101%
(基盤事業)	440	221	222	443	+3	101%
(Proseat事業)	372	211	166	377	+5	101%
営業利益	19	8	9	17	△2	89%
(基盤事業)	34	15	19	34	±0	100%
(Proseat事業)	△ 15	△ 7	△ 10	△ 17	△2	—

売上は「前年並み」も、営業利益は「減益」の見通し

<p>(エレクトロニクス)</p>  <p>ポリマー微粒子 各種 梱包材</p>		<p>基盤事業 (モビリティ)</p>  <p>自動車部材 部品梱包材</p>		<p>(医療・健康)</p>  <p>高機能ゲル シューズ部材</p>		<p>Proseat 事業 (モビリティ)</p>  <p>自動車部材</p>
---	--	---	--	--	--	--

2024年度 インダストリー分野 (基盤事業) 通期見通し

(単位：億円)	2023年度 実績 (A)	2024年度 見通し			前年比	
		上期	下期	(B)	(B) - (A)	
売上高	440	221	222	443	+3	101%
営業利益 <営業利益率>	34 <7.7%>	15 <6.8%>	19 <8.6%>	34 <7.7%>	±0 -	100% -

各市場や各製品で濃淡あるも、売上高・営業利益ともに「ほぼ前年並み」の見通し

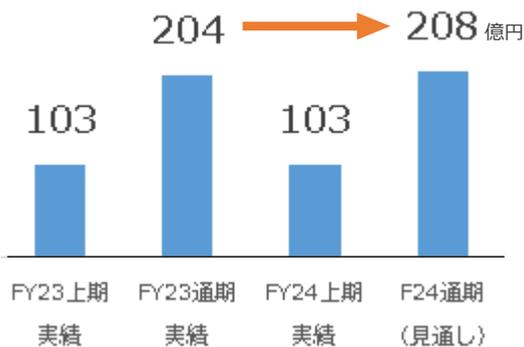
エレクトロニクス

微粒子など液晶関連で「増」も、
堺ディスプレイプロダクト閉鎖で「減」
トータルでは「前年並み」



モビリティ (基盤事業分)

自動車部材用途の「増」も、
梱包材用途の「減」で、
トータルでは「前年比微増」



医療・健康

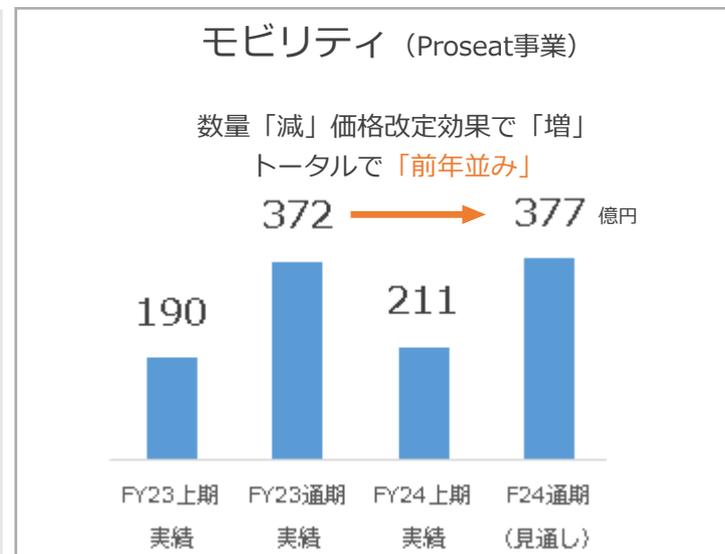
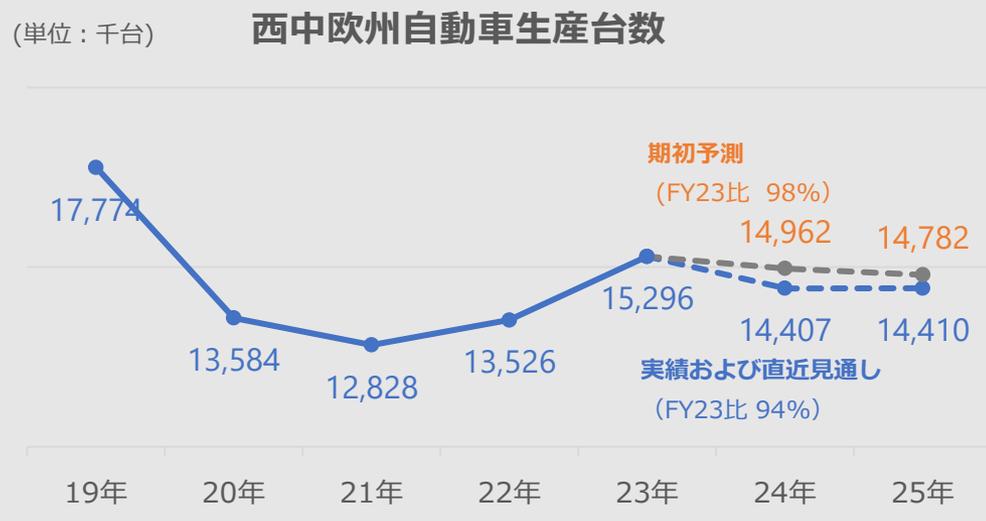
高機能ゲルで「増」も、
シューズ部材などの「減」で、
トータルでは「前年並み」



2024年度 インダストリー分野 (Proseat事業) 通期見通し

(単位：億円)	2023年度 実績 (A)	2024年度 見通し			前年比	
		上期	下期	(B)	(B) - (A)	
売上高	372	211	166	377	+5	101%
営業利益	△ 15	△ 7	△ 10	△ 17	△ 2	-
<営業利益率>	-	-	-	-	-	-

西中欧州自動車生産台数が大幅下落、価格改定効果で「売上は前年並み」も「赤字継続」



VW工場閉鎖など欧州自動車産業の動向を見越した抜本的な構造改革を検討・実施中

2024年度 インダストリー分野 (Proseat事業) 改善進捗

	FY23 通期実績 (A)	FY24 計画 (B)	改善計画額 (B) - (A)
営業利益	△15億円	△9億円	(+6億円)

		FY24 (改善計画額)	改善額見通し	差
収益改善額 合計		(+6億円)	△2億円	(△8億円)
+	価格改定交渉 (低採算物件、物価高騰分など)	(+18億円)	+18億円	(+0億円)
改善	生産性改善、調達コスト削減、労務費・経費削減			
△	人件費上昇、減価償却費増など	(△9億円)	△13億円	(△4億円)
負担増	本社部門、工場人員リストラ費用			
販売数量影響		(△3億円)	△7億円	(△4億円)

上期進捗状況

- ・ 欧州自動車需要低迷により数量減少、労務費高騰等コストが増加も、価格改定により増益

FY24下期見通し

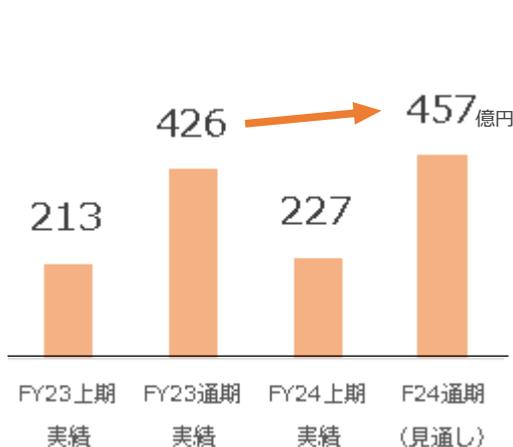
- ・ 欧州自動車生産台数は低調、労務費高騰継続、リストラ費用等追加コストで減益の見通し

2024年度 ヒューマンライフ分野 通期見通し

(単位：億円)	2023年度 実績 (A)	2024年度 見通し			前年比	
		上期	下期	(B)	(B) - (A)	
売上高	491	258	262	520	+29	106%
営業利益 <営業利益率>	18 <3.6%>	7 <2.5%>	13 <4.9%>	19 <3.7%>	+2 -	110% -

シート販売増と値上げ進捗で「増収」、下期に価格改定効果が発現し「増益」

食



- シート数量 トータルでは「微増」
 - ・ 食品トレー 前年比 「増加」
 - ・ カップ麺・丼容器 “ 「前年並み」
 - ・ 折箱弁当容器 “ 「前年並み」
- ビーズ数量 トータルでは「微減」
 - ・ 水産 前年比 「前年並み」
 - ・ 農産 “ 「減少」
 - ・ 弱電 “ 「大幅減」
 - ・ 建材土木 “ 「前年並み」
 - ・ ライフグッズ “ 「大幅減」

住環境・エネルギー

● 売上は「前年並み」の見通し



2024年度 設備投資概要

(単位：億円)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度		
	実績	実績	実績	実績	実績	期初計画	上期実績	年間予定
設備投資額	53	54	38	37	51	(84)	38	70
減価償却費	61	62	62	57	57	(61)	30	60

● 主な設備投資

(2024年度 上期実績)

化成品大分リニューアル

環境対応（リサイクル関連）設備

情報システムインフラ整備

大阪本社リニューアル など

(2024年度 下期予定)

生産システム改善設備

省エネ・省人化設備

研究開発設備

情報システムインフラ整備 など

2024年度 株主還元（予想）

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度 (予定)
1株あたり当期純利益(円)	69.09	51.29	24.86	△ 130.99	10.00	23.88	8.8
1株あたり配当(円)	30	30	21	12	12	13	13
配当性向(連結)	43%	59%	85%	－	120%	54%	
自己株式取得(百万円)	－	－	141.5	－	－	－	
総還元性向(連結)	43%	59%	97%	－	120%	54%	
ROE	4.8%	3.6%	1.6%	－	0.8%	1.9%	
自己株式消却(万株)	－	－	－	－	－	－	

- **配当方針** 連結業績の動向に応じかつ、配当の安定性と内部留保のバランスを総合的に判断
※配当性向 30～40% を目途
- **配当予想** 年間 13円/株（中間 3円、期末 10円）

目次

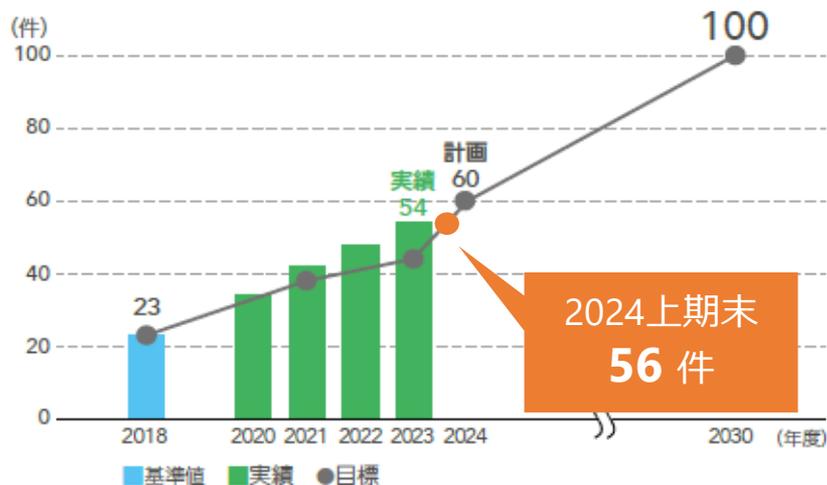
- 1 2024年度上期 決算概要
- 2 2024年度通期 業績見通し
- 3 2024年度上期 トピックス

環境貢献製品の創出と拡大

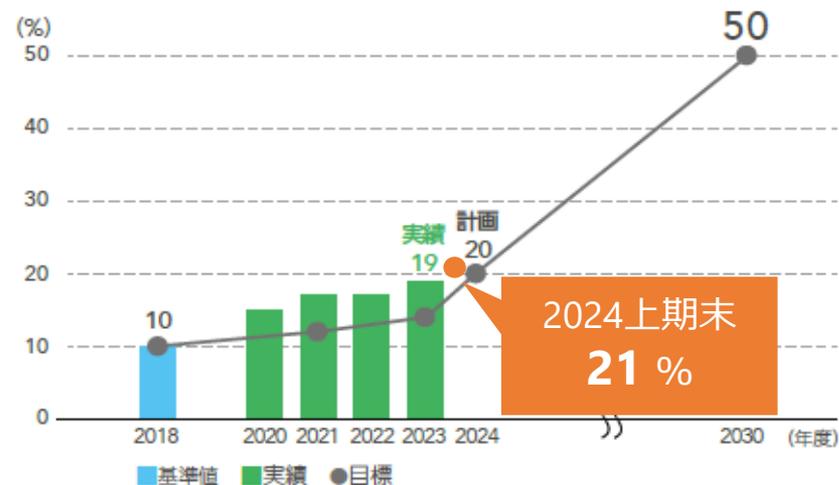


当社は、環境貢献製品（サステナブル・スタープロダクト）の登録件数と売上高比率の目標を定め、持続可能社会に貢献する事業拡大を戦略的にすすめています。

登録件数の目標と実績



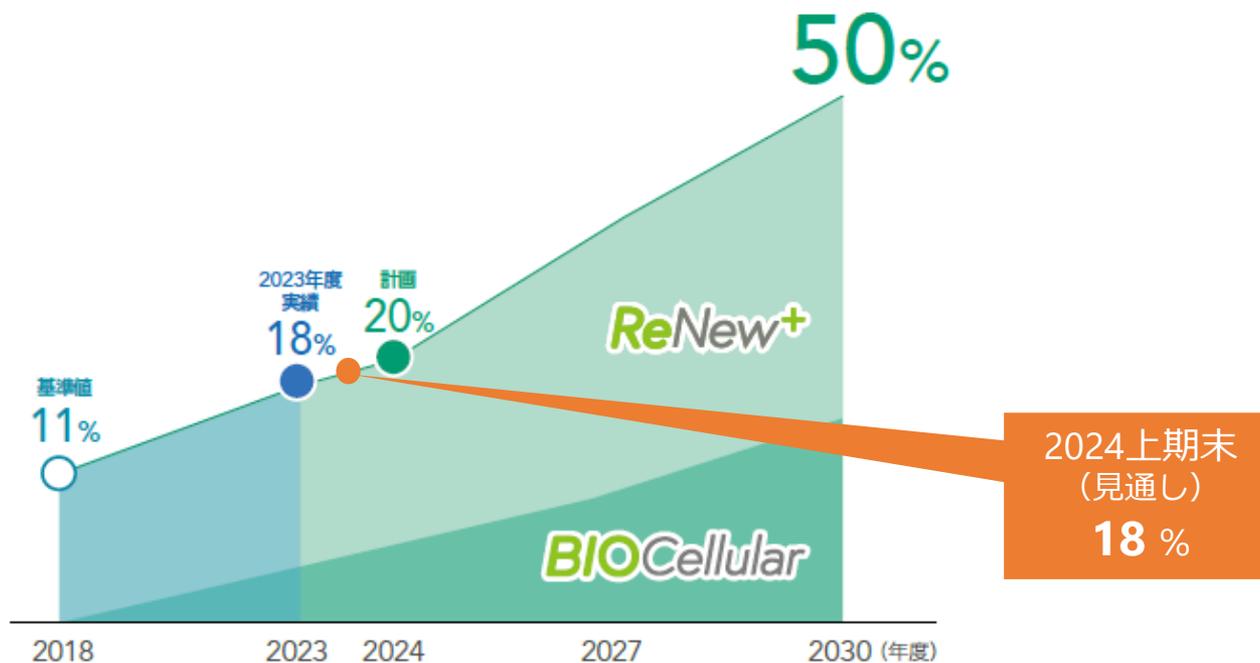
売上高比率の目標と実績



環境配慮を求める社会ニーズを受け、順調に伸ばしています

リサイクル・バイオマス原材料の活用拡大

当社グループの使用原材料を、従来の石化由来バージン材料から、リサイクル材または生分解・バイオマス由来材料に置き換えていきます。（2030年目標：総生産量の50%）

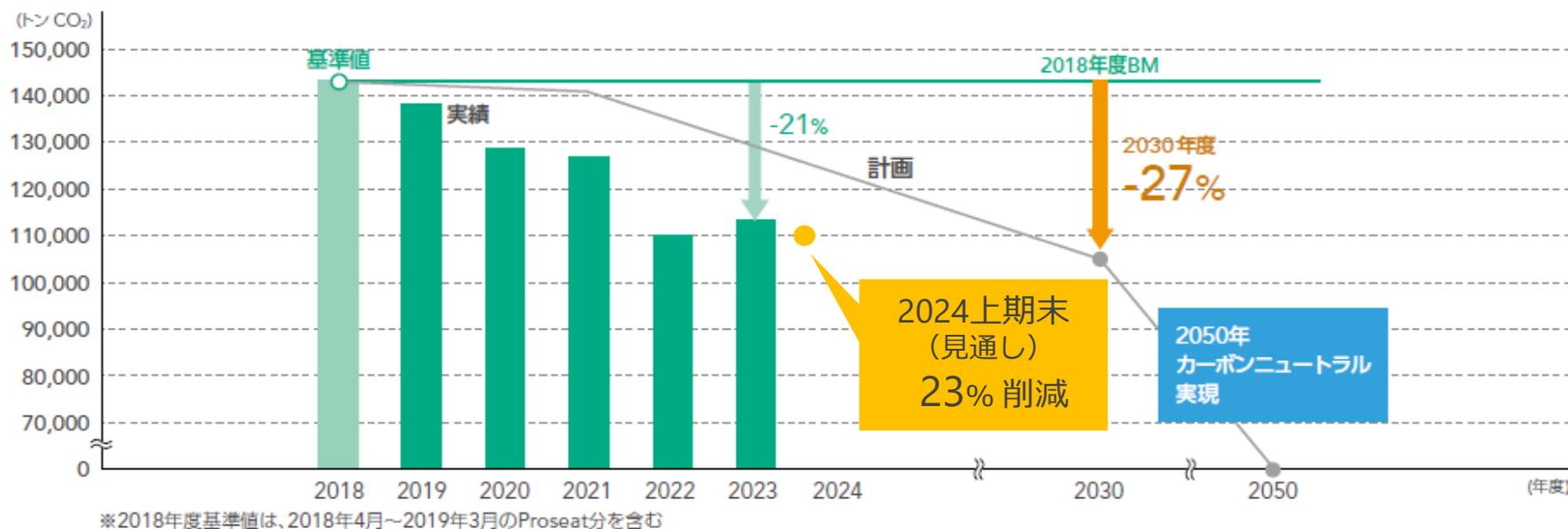


計画想定範囲内で推移しています

気候変動対応



当社グループは、TCFD提言に賛同し、2050年カーボンニュートラル実現に挑戦しています。
2030年のCO₂ 排出削減目標（-27%）を前倒しで達成可能な見込みです。

CO₂排出量 (Scope1+2) 削減目標と実績

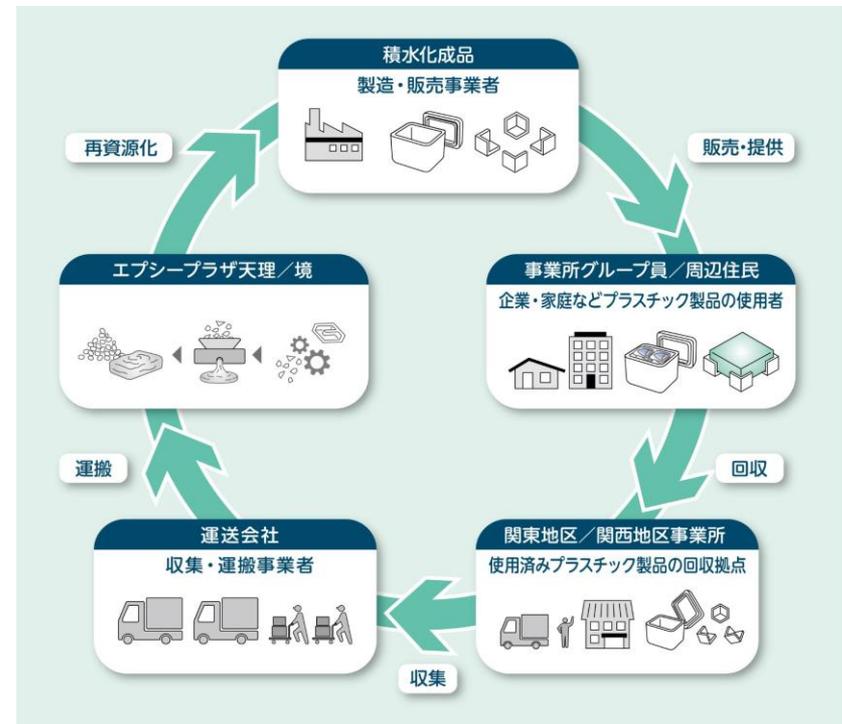
新たな2030年のCO₂排出量削減目標を、次期中期経営計画内で発表します

発泡スチロール自主回収・再資源化の取り組み

- ▶ 経済産業省・環境省より、
「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」
に基づく自主回収・再資源化事業計画の認定第3号
を取得
- ▶ 地域住民の皆さまや当社グループ員から使用済みの
発泡スチロールを回収・再資源化
- ▶ 関西地区でスタート、関東地区に対象地域を拡大し、
現時点で日本人口の約63%の都道府県をカバー

関西1府6県：奈良、大阪、兵庫、滋賀、愛知、岡山、和歌山

関東1都7県：東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、新潟



発泡スチロールの自主回収と再資源化ループを全国的に展開し
国内でのプラスチック循環を促進します

ECOアクションギャラリー開設

当社グループの環境への取り組みを、環境貢献製品を中心に「見て・触って・体験できる」ギャラリーを開設しました。『脱炭素』『防災・減災』『バイオマス』『マテリアルリサイクル』のエリアに分かれています。



ギャラリー風景



「見て・触って・体験できる」



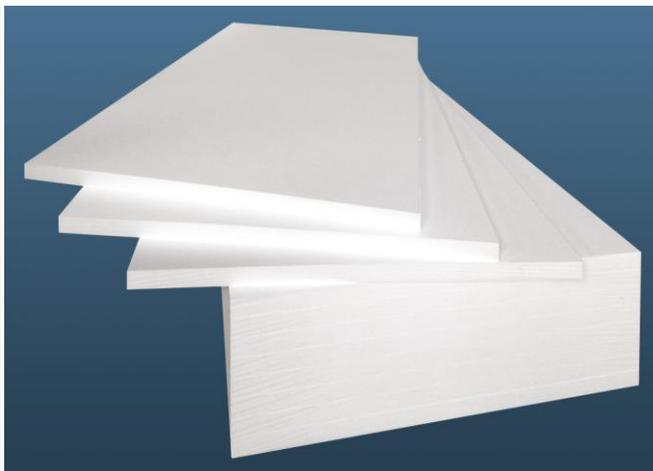
- 場所：奈良県天理市森本町670（㈱積水化成品天理 事業所内）
- 見学お申し込みはこちら 当社ウェブサイト：トップ > サステナビリティ > 持続的成長を支える E S G 経営の推進 > E 環境
URL ; <https://www.sekisuikasei.com/jp/sustainability/esg/environment/>

2024年4～9月、約200名にご来場いただきました
皆さまのご来場をお待ちしています

「エスレンビーズ RNW」新規採用拡大



物流容器用途
(宅配用保冷通い箱)



断熱材用途
(住設資材)



リサイクルポリスチレンを活用した
発泡性ポリスチレンビーズ
「エスレンビーズRNW」

ReNew+

コープ・生協「宅配用保冷通い箱」の採用地域が拡大しました。建設資材用途では、軽量盛土材用途に加え、住設資材（浴室断熱材）などへも採用用途が広がりました。資源循環に対する社会ニーズに応え、「エスレンビーズRNW」の販売が着実に伸びてきています。

ポリマー微粒子「テクポリマー」 自動車ライティング用途への展開



アンビエントライト
(室内間接照明)



デイトタイムランニングライト
(昼間走行灯)



ポリマー微粒子
「テクポリマー」

※写真は各用途のイメージであり、採用された特定の車種を示すものではありません。

自動車のアンビエントライト（室内間接照明）や、デイトタイムランニングライト（昼間走行灯）など、自動車ライティング向け需要が拡大しています。
透明性の高い照明カバー部材（ポリカーボネート樹脂など）に「テクポリマー」を添加し、LEDの光を均一に拡散させています。

溶液重合を用いたポリマー材料「Fluxflow」 用途探索と開発体制の強化で採用を加速



Fluxflow

- 環境負荷低減 : フッ素を含まず、ムール貝の接着現象を応用した分散剤として、環境負荷を低減します。
- 高濃度分散 : PTFE 粒子など表面自由エネルギーの低い粒子を水中に高濃度で分散させることが可能です。
- シンプルなプロセス : 分散剤は水溶性であるため、シンプルなプロセスで簡単に水分散液を調製できます。

北米で開催された「PFAS 2024」※にて、溶液重合を用いたポリマー材料「Fluxflow」を紹介しました。当講演では、生体模倣技術を活用したフッ素元素を含まない分散剤として当該素材の技術的な利点と潜在用途を紹介し、大きな反響を得ました。

※ 「プラスチック業界におけるパーフルオロアルキルおよびポリフルオロアルキル物質 2024 (PFAS 2024)」は、PFAS を取り巻く規制状況に関する洞察や、禁止措置の実施に伴う技術的および経済的課題について議論を行うカンファレンスで、2024年10月29日、30日にかけて、メリーランド州・ボルチモアで開催されました。

社内においても、開発部門とマーケティング部門一体の専門プロジェクトを編成し、有望市場における採用の早期化を加速させています。

本業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

内容に関するお問合せは

コーポレート戦略本部 コーポレートコミュニケーション部

E-mail : ir_pr@sekisui-kasei.com

SEKISUIKASEI[•]

Our Planet. Our Tomorrow.